

第4回 大田区基本構想審議会第1部会 議事要旨

日時	平成 19年 11月 27日(火) 午後 3時半～5時半
会場	大田区役所第五委員会室
出席者	中井委員(部会長)、奥田委員、田中(常)委員、千原委員、富田委員、舟久保委員、星野委員(五十音順)

- 1 開会
- 2 配付資料の説明

3 審議

【観光振興の方向性について】

- ・ 今の状況で観光を前面に出すのは難しいが、要素はある。大田区の観光振興のユニークなセールスポイントは羽田、ものづくり、水辺と緑の3つ。これらでいかに観光資源を括るかが重要。一つは産業観光をどう考えるか。羽田空港、大田市場、平和島の流通センターなどをどう活かすか。また、工業集積をどう考えるか。「工業フェア」の際に、地域全体をオープン・ファクトリーとして、地域との会話がある地域コンベンションができればいい。ナムコやセガなどゲームメーカーの発祥の地でもあるが、ストックがない。そういうものを集められるといい。羽田に航空博物館をという声もある。ウォーターフロントは水上交通が課題であり、スポーツ、ファッション、エンターテインメントの拠点をつくりながら、浜辺に賑わいを創るのが今後のテーマ。歴史的なものは点在しているがインパクトがないので、それぞれが連携する必要がある。文士村、洗足池、池上あたりを心と体のリフレッシュゾーンとして開発できるといい。交通の便が悪いので、デマンドバスを走らせたいたい。
- ・ ハワイで観光ツアーに参加した経験を元に4つのポイントを話したい。1点目はツアーの出発点はどこか。出発点となるホテルが必要ではないか。2点目は様々なコースがあること。半日、1日、3時間など様々な時間で、どこを巡るのかを考えたい。3点目は食事。4点目はガイド。ガイドの視点から観光ルートを考える。ガイドの説明一つで、生活をみせることも売りになる。
- ・ 見る・遊ぶ・食べる・泊まるというのは観光の基本要素。大田区でそれを全部揃える必要はないかもしれないが。ボランティアガイドはいるのか。
- ・ 一般に頼める人はいない。ある程度の料金がないと、専任は難しい。
- ・ 横浜のボランティアガイドは、出発地、興味のある内容、時間に応じてコースをつくってくれる。外国人の利用が比較的多い。

- ・ 大森では文士村や貝塚が認知されている。蒲田では、工業のまち、オンラインのものをつくるまち、というイメージを定着させるために、かつての優良な工業製品をめぐるルートをつくったらどうか。
- ・ 観光には「静」と「動」がある。大田区では、工業の中の動的な物を紹介して残せば、特徴あるものになるのではないか。
- ・ 知名度が高いのは大森貝塚、ものづくり、大森海苔、本門寺程度だ。京都等のように、有名なものを繋いでツアーにするのは難しい。有名なものを掘り出さなければならない。ツアーは一つのテーマがなければ成立しない。ものづくりという観点でオープンファクトリーを繋げたり、区内に多くある寺を巡るのもいい。観光に関しては一点集中という考え方で論じた方がいい。
- ・ この 10 年ぐらい観光は大田区の重大テーマとして議論されてきたが、具体的にならなかった。資料の例示をみても、かつてあったが今はないものが多い。それを掘り起こしてまで観光資源になるのかどうか。仕掛けや PR が必要だ。羽田に来た客をどうするかがポイント。多摩川に注目してはどうか。
- ・ ディスティネーションになる観光地ではないので、広い意味の観光、つまり観光産業をつくるのではなく、観光をキーワードにしてまちづくりを進めると考えたい。最近は体験型観光が人気だが、ものづくりでも同様ではないか。
- ・ 工場ではなく、学校などにある機械を使ってイベントをやるのもいい。
- ・ それを誰が誰のためにするのか。バスの手配等まで含めて考えると工場にとってはビジネスにならず、観光協会としてはそこまで要望しにくい。そこで、イベント時にまちを挙げて観光客を受け入れるようにしたいと考えている。
- ・ 工業フェアをつなげるのはいいことだ。かつては工業フェアで研磨や絞りなどのパフォーマンスをやっていたが、今では商売の場になっている。
- ・ 産業プラザで大田区の企業の製品の展示しているが、PR が足りない。
- ・ 「キッザニア」は楽しそうなイメージだが、「工業フェア」というと入りにくい。子どもが入りやすい仕掛けが必要。
- ・ 工業フェアがまちを代表するものになるといい。
- ・ 伝統産業では体験型観光が多くなってきた。ものづくりでもそういうことが展開していくと、工場同士のつながりや地域同士のつながりができる。
- ・ 観光資源として、お屋敷、神社、カーネーション発祥の地などが抜けている。
- ・ 馬込のシクラメンもある。
- ・ 梅、桜、アジサイなど、花（づくりの伝統）は昔からあった。
- ・ 花もものづくりだ。
- ・ 今ある観光資源だけでなく、最近は観光資源をつくりだすというものもある。長浜では伝統のないガラス細工を持ってきて、古い建物を活かした黒壁スクエアを中心に年間 200 万人を集めている。観光とは「光を観せる」こと、つ

まりまちの光をうまくみせること。大田区ではものづくりとまちづくりをうまく組み合わせて観光客にも来てもらうことが目標になるのではないか。

- ・ 羽田空港そのものも観光地としたい。
- ・ 航空博物館について提案しているが、まだ賛同を得られていない。
- ・ (都営浅草線の)西馬込から先はどうなっているのか。
- ・ 西馬込から少しだけ伸ばして本門寺駅をつくりたい。
- ・ 本門寺まで伸びれば、馬込などと点と点をつなぐ路線になる
- ・ それはできなくても、デマンドバスを周遊させて、乗り継げるようにしたい。
- ・ 大田区の観光は大きな目玉がないので、小さなものを開拓するしかない。新しく仕掛けたものと、以前からある史跡とをつなげて、観光ルートにしたい。

【産業分野の積み残しの議論】

<ものづくり>

- ・ 大田区では福祉産業の従業者数が伸びている。居住者層と産業がバランス良くあるという意味では頷ける結果だ。情報サービスは対事業所サービスであり、事業所が多い区では当然多い。
- ・ ソフトウェア産業は波が激しくて、博打的な要素が強い。大田区はものづくりを活かした方がいい。カラフルでおしゃれな車イスや福祉・医療施設など、提案型のものづくり、つまり製造側にこういう製品をつくってはどうかと売り込むことができないか。
- ・ 大田区内ではあまりそうした(福祉等の)製品は聞かない。
- ・ 最近、環境福祉展という、大田区内の業者や大学等の展示会をやっていた。区内の企業でも車イスなどの福祉機器について頑張っている。大田区の工場がつくっているものについて、どこでアピールするかが問題。
- ・ 大田区の工業は要素技術であり、完成品をつくるイメージがない。完成品をつくる業者が来て、大田区で要素技術を集めてつくるのに頼らざるを得ない。
- ・ そうした話はコーディネータがまとめ役になると思うのだが、コーディネータとは誰がどのようにして育てるのか。
- ・ インキュベーターとは産業政策を推進する人材、専門的知識を持つだけではなくて考えて行動する人。大田区で欠けているのは、どの産業がこの先栄えるのか、という政策的誘導の視点。羽田があることを活かして、安全に物を移動する産業といった切り口で整理してはどうか。事業者単独ではできないので、オーガナイズする人が必要。荒川区の MACC プロジェクトのような、地場の事業者をどうするかという活動が始まっている。コーディネータには情報を右から左に流すのではなく、「シビック・アントレプレナー」、つまり戦略を持って地域に働きかけることが求められる。

- ・ 航空機産業は需要が出てくるだろう。空港があるのでフェース・トゥ・フェースで話が出来るし、品川、川崎、横浜と連携した取り組みも期待できる。
- ・ 大田区は最終製品をつくるよりは要素技術が中心。航空機といっても、計測器などか。福祉や環境に関する要素技術の蓄積はあるのだろうか。
- ・ 大田区にストックされているノウハウは、工夫することや考えること。さらに、自分で広げていけるようなクリエイティブな人材が必要。そのために外から刺激がある交流を仕掛けたい。

< 商業 >

- ・ 商店街の地図を以前みたが、それらがつながると面白いのではないか。
- ・ 実際は、商店街としてつながっていない。
- ・ 蒲田と二子玉川は商品販売額がほぼ同じだが、雰囲気や賑わいはかなり違う。
- ・ 蒲田から京急蒲田を一つのエリアと捉えて計画できないか。田園とビジネス、生活と観光でそれぞれ軸をとってプロットすると、六本木はビジネスと観光、二子玉川は田園と観光、六本木ヒルズの居住棟はビジネスと生活の象限に位置する。羽田のある蒲田は、二子玉川よりも観光寄りと位置づけられる。
- ・ 川崎の床面積は蒲田と同じぐらいだが、床単価は川崎の方が高い。自由が丘と大森の年商もほぼ同じだが、飲食が入ると自由が丘が上だろう。
- ・ 大森の商業を活性化するために、どこかとストリートで結ぶとよい。馬込駅と山王を結んで、代官山から渋谷駅のような、小さなブティック等の商業集積をつくることで、通りとしての賑わいを出すなど。駅東側の平和島・大森町駅から大森駅への道は、昔ながらの東海道を彷彿させる路線などはどうか。今の JR 駅だけでは限界があるので、仕掛けが必要。
- ・ 各駅の差別化が必要。大森にはジャーマン通りもあり、ドイツ風の商業集積ができないかと考えたが、まちにそういう意識がない。
- ・ 大森は東西それぞれにイメージが描ける。が、蒲田は難しい。
- ・ 再開発の際、いかに容積利用するかばかりを考え、まちをどうするかという意識がない人が多い。路面店を含めて蒲田の味をどうするかを考えて高度利用すべきだ。蒲田全体のグランドデザインを考えないといけない。
- ・ 高齢社会になって、自由に動けなくなることを考えたとき、近隣商店街がどうあるべきか。近隣商店街が全部活性化するとは考えにくい。
- ・ 鉄軌道系の不便地域へのバスのアクセス等の基本情報は用意して頂きたい。
- ・ 現在、検討中のコミュニティバスは区が運営するのか。高齢化社会では、公共交通にアクセスできない不便な地域は辛い場所になる。そういう中では近くで買い物できるのは便利なのだが、なかなか難しいのだろうか。

【臨海部】

- ・ 商用来訪者と観光客の両方を考えてもいいと思っている。訪日外国人の7割はアジア人。国の観光客誘致政策の主な対象は、韓国人の場合は若年層と熟年層の教育旅行、目的型旅行。教育旅行として、日本のものづくりをみせると良いのではないか。国際コンベンションの都市別ランキングは、東京はソウルや北京よりも下位。コンベンション振興も方向性としてありではないか。
- ・ 国際コンベンションが少ないのは成田が遠いからではないか。
- ・ 羽田はエアーフロントであると同時にウォーターフロントだ。地域としての営みとつながっている場所であり、ウォーターフロントをうまく活かして地域とつなげたい。多摩川沿いには、サイクリングロードがあるが、休息所やトイレを整備できれば可能性が広がる。また、テニスコートや野球場などのスポーツ施設もあるが、ショップやレストランなどが一緒にあるといい。
- ・ 羽田は、今のままでは素通りされる場所になる。観光に耐えられる空港にしたい。同時に、区民・都民、さらに神奈川県民も楽しめる場所にしたい。
- ・ シカゴでは空いた時間に運河に行って、建物を楽しめる。羽田でも、空いた時間に「日本の地場の工場地帯」をまわられるような楽しみがあってもいい。
- ・ 上海に続いて、北京との直航便もできる。羽田と中国との関係が深くなってくる。それに大田区はどう対応するのか、心配している。
- ・ 外国人犯罪も増えるだろう。良くも悪くもどう対応するかという問題意識が必要。必ずしもいいことばかりではない。フリクションもそれだけ生じる。
- ・ 沢山の人が入り出すと、人と物と金が集まり、犯罪を呼び込む人も介在してくる。日本では監視カメラについて、なかなか容認されにくい部分があるが、セキュリティ対策の検討は必要。

【基本目標、個別目標について】

- ・ 基本目標は一つに収束させたい。個別目標は3つから5つぐらいにまとめることとなるので、そうしたイメージで考えて頂きたい。

4 区民との意見交換会の委員の役割分担について

- ・ 部会長は12月14日のみの出席となる。12月27日と1月12日は、田中委員に部会長の代わりをお願いしたい。1月10日は奥田委員をお願いしたい。
- ・ 質問への回答は、12月14日は部会長が可能な限り答え、今までの議論の中で関連するものは、各委員に発言を頂く。その後は同日の様子を見て考える。

以上